



疑義照会・処方医への情報提供

規格による効能・効果や併用禁忌の違い



事例

【事例の詳細】

レルベア200エリプタ30吸入用を使用中の70歳代の女性患者にミニリンメルトOD錠25 μ gが処方され、薬剤を交付した。その後、薬剤を交付した薬剤師は薬剤服用歴を確認した際に添付文書を見て、ミニリンメルトOD錠25 μ gの効能又は効果が男性における夜間多尿による夜間頻尿であること、レルベア200エリプタ30吸入用との併用が禁忌であることに気づき、疑義照会を行うべきであったことが分かった。

【推定される要因】

同成分のミニリンメルトOD錠60 μ g/120 μ g/240 μ gの添付文書には、効能又は効果に男性の記載はなく、併用禁忌となる薬剤の記載もない。ミニリンメルトOD錠25 μ gも同様であるとの思い込みがあった。知識不足と確認不足であった。

【薬局での取り組み】

添付文書で適応症や禁忌などの確認を確実に行う。

その他の
情報

販売名	ミニリンメルトOD錠		
	25 μ g/50 μ g	60 μ g	120 μ g/240 μ g
販売開始	2019年9月	2013年3月	2012年5月
効能又は効果	男性における夜間多尿による夜間頻尿	中枢性尿崩症	中枢性尿崩症、尿浸透圧あるいは尿比重の低下に伴う夜尿症
併用禁忌	チアジド系利尿剤、チアジド系類似剤、ループ利尿剤、副腎皮質ステロイド剤(注射剤、経口剤、吸入剤、注腸剤、坐剤)	-	-

事例の
ポイント

- ミニリンメルトOD錠は2019年9月に25 μ gと50 μ gの製剤が販売開始され、5規格から選択し処方することが可能となったが、規格により効能・効果や併用禁忌の有無が異なるため、違いを正しく把握したうえで処方監査を行い、薬剤を交付する必要がある。
- 規格により添付文書の記載事項が異なる薬剤を採用する際は、薬剤に関する情報を薬局内で周知し、薬剤の一覧表の作成や薬品棚に相違点などを表示して注意喚起するなどの工夫が必要である。
- 本事例は、疑義照会を行うべきところ行わなかった事例として報告された。事例の詳細には、疑義照会を行うべきであったことに気付いた後に行った対応の記載がなかった。報告された事例は本事業のホームページで公開され、医療安全対策に活かされる情報となることから、疑義照会を行うべきであったことに気付いた後の対応も併せて報告いただければ幸いです。

